



VFS-FR Managerとは?

VFS-FRを、パーソナルコンピュータに接続することで、周波数を初めとする設定をより簡単に行うための支援ツールです。設定アダプターで行う場合に比べ、ステップごとの周波数やその他の設定が1画面で行えるためにイメージが掴みやすく大きく効率がアップします。(※このソフトウェアは、VFS-FR以外には対応しませんので、ご注意ください。)

ソフトウェア動作環境

- Microsoft Windows98,Me,2000,Xpが動作するパーソナルコンピュータ
- 接続コードを使用するために最低1個のRS-232Cポート(※USBを介してのアダプターによる動作は保証いたしません。)
- 当製品を使用した結果の障害に関しては、一切の責任を負いかねます。

使用許諾・商標について

このソフトウェアは、VFS-FRとICS-PCインターフェースをお使いの場合に限り、フリーソフトウェアとしてお使いいただけます。このソフトウェアをご使用になったことによる、直接または、間接的な損害、結果については、著作者である近藤科学(株)は責任を負いません。ご使用にあたっては、使用可能な機器その他の条件を確認して行ってください。

VFSシリーズの周波数設定機能については、近藤科学(株)が特許取得済です。
この文書及びプログラム中の商標および名称はそれぞれの登録商標および意匠です。
この文書およびプログラムなど著作物に関しては、近藤科学(株)が著作権を有します。

インストール

- 1 パソコンのハードディスク上に適当なフォルダを作成します。(例：C:\VFS-FR)
- 2 作成したフォルダにプログラムをコピーします。
プログラム本体 VFSFR_JP.EXE
- 3 必要があれば、デスクトップにショートカットを作成します。
- 4 プログラムをスタートさせる前に、パソコンで使用可能なRS-232Cポート番号を調べておきます。
(パソコンの取扱説明書などをご参照ください。)
よくわからない場合にはお使いのパソコンメーカーなどでご確認ください。



VFSFR_JP.EXE

通信準備

- 1 パソコンにICS-PCインターフェースを接続します。コードが短い場合には、延長ケーブルなどを使用してください。
- 2 ICS-PCインターフェースにVFS-FRの受信機へ接続するコネクタを接続します。VFS-FRは通信モードにします。
- 3 VFS-FRに電源を接続して、セットボタンを押しながら電源スイッチをONにします。
LEDランプが点灯してもさらにセットボタンを押し続けて、LED消灯したらボタンを離します。これが通信モードです。

画面の説明と操作

VFS-FR Managerを立ち上げると、次ページの画面が表示されます。

- ①COMポート設定
コンピュータとの通信ポートの設定です。まずはじめに、インターフェースケーブルを取り付けているPCのポート番号をここで指定します。現在の接続ポート番号が不明の場合には、Windowsコントロールパネルの「システム」にある「ハードウェア」タブをクリック、「デバイスマネージャー」を開き、「ポート」をクリックすることで現在の接続状況が確認できます。ICS-PCインターフェースが接続されたポートの番号を指定してください。
- ②VFSからのデータ取得
このアイコンをクリックすると(VFS-FRが正常にアクセスモードに入っていれば)現在のVFS-FRのデータがPC画面上に表示されます。セッティングデータの加工をする前に一度現在のVFS-FRデータを読み込んでから作業することをお勧めします。
- ③PCからVFS-FRへのデータ転送
このアイコンをクリックすると現在のPC画面上のデータがVFS-FRに転送され、書き込まれます。
- ④ブレーキ周波数設定
ブレーキの利きの強さを周波数設定で変更できます。右のボタンを押して、任意の周波数を選択してください。一般的には周波数が低い方が強くかかるようになります。送信機側のブレーキストローク調整とあわせて調整すると良いでしょう。
- ⑤スロットルモード
ブレーキ(バック)操作をした時の動作を設定します。通常は、BRK/BAKを指定します。この場合、アンブは最初のブレーキ操作でブレーキがかかり、一度ニュートラルにスロットルを戻してからブレーキ操作をすることでバックをします。BRKEに設定すると、バック動作はしない。(バック禁止モードです。)BACKはブレーキなしのリニアバックモードとなります。
- ⑥パワーセーブボルテージ設定
急激なスロットル操作や一瞬の負荷に対して多くの電流が流れた場合、バッテリーの電圧降下が起こり、受信機やサーボの異常動作が起こる可能性があります。VFS-FRにはここで設定した電圧をバッテリーが下回ったときにモーターへのパワーをコントロールし、メカに供給する電圧を確保する機能が内蔵されています。VFS-FRでは3.0Vが初期設定値となっております。

⑦スロットルレスポンス設定

スロットルのタッチフィーリングを変化させることができます。右のボタンをクリックすることでOFFから9まで、10段階での設定ができ、大きな数値になるほどマイルドなフィーリングを得ることができます。効果は使用する条件によって異なりますので、実戦投入前にテストしておくことをお勧めします。送信機のスロットルパンチ機能と組み合わせても良いでしょう。

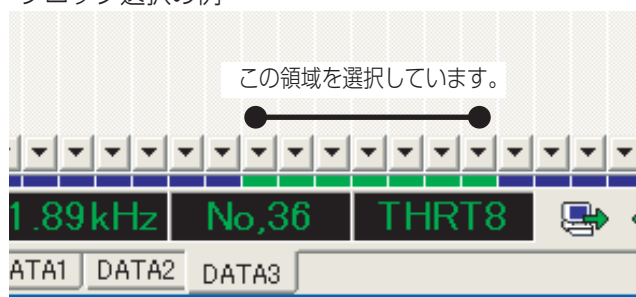
⑧カレントリミッター設定

VFS-FRがモーターに供給する電流の最大値をコントロールすることにより、過大な電流が流れることを防ぎ、モーターやバッテリーを保護します。右のボタンをクリックすることで60~240Aの7段階のリミッター制限、または制限解除のOFFを選択してください。

⑨コメント

現在表示している画面データに対するコメントを記入できます。

ブロック選択の例



⑬データタブ

このタブをクリックすることでウィンドウに表示している設定と異なるデータをページとして呼び出すことができます。右クリックのメニューでページの追加、名称変更することも可能です。また、前述の④~⑩の設定はこのデータタブに付随して変化します。

⑮ファイルを開く

データファイルを開きます。

⑯ファイルの保存

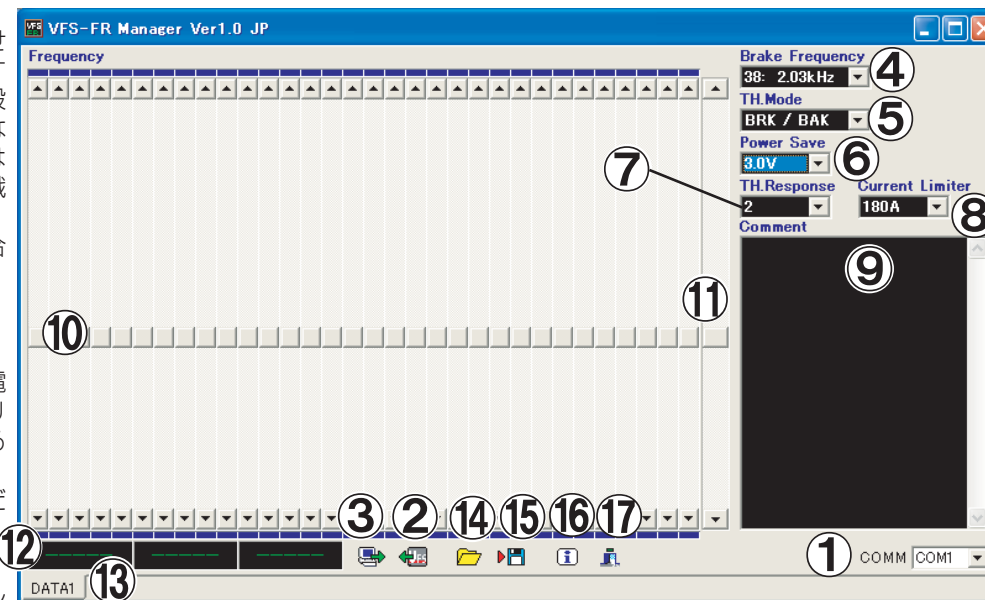
表示中のデータをファイルとして保存します。

⑰インフォメーション

バージョン情報などを表示します。

⑱終了ボタン

プログラムを終了します。



⑩データスライダー

前進時の周波数設定です。VFS-FRでは前進側のスロットル操作位置の全開ポイント(ハイポイント)直前までを32個の領域(THRT)に分解して各領域の周波数を調整することができます。それぞれの領域での周波数設定は64ステップ(0.46~5.26kHz)です。

※1つのスライダーをクリックすることで⑩データインジケータに現在のステータスが表示されます。ついでにShiftキーを押しながら任意の異なるスライダーをクリックすることで最新に選択したスライダーから連続ブロック化され、その選択された範囲全体をドラックすることができるようになります。なお、Shiftキーを離すとこのブロック選択は解除されます。

⑪ALLスライダー

前進時の周波数設定の全体をブロックとしてまとめて加減することができます。

⑫データインジケータ

データスライダーの現在のステータスを表示します。右から「選択しているTHRT番号」「周波数番号」「周波数」の表示です。

データタブの使用例



サブメニュー

○データ表示部分をマウスの右クリックすることでメニューが表示されます。

<p>データタブでアクティブになっているページの名前をつけることができます</p> <p>データタブの新規追加ができます (新規に追加されたページは全ての設定が初期値になっています。)</p> <p>表示中のタブのデータをコピーします</p> <p>コピーしたデータを新しいタブを作成して貼り付けます</p> <p>周波数変化の途中が滑らかに補完されます</p> <p>実行することで、現在表示中の周波数データが初期化されます</p> <p>実行することで、現在表示中の周波数以外の全てのデータが初期化されます</p> <p>保存してあるファイルのデータを現在のデータに追加して開きます</p> <p>現在表示しているページのみを保存します</p> <p>全てのページを保存します</p> <p>編集中のファイルが開かれて、表示は初期設定の状態となります</p> <p>現在表示しているページ(タブ)のみを削除します</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ページの名前を変更する(N) ● 新規ページの追加(Q) ● コピー(P) ● 貼り付け(Q) ● 直線で結ぶ(B) ● 周波数をリセットする(S) ● その他の項目をリセットする(T) ● ファイルを開く(U) ● ファイルを挿入する(V) ● 現在のページのみ保存(W) ● 全て保存(X) ● 編集中のファイルを開じる(Y) ● 現在のページを削除する(Z)
--	--

お問い合わせ